

平成 31 年度 社会科 第 1 学年 学習指導・評価計画

1 社会科の学習指導のねらいおよび目標

グローバル化する社会において、国際的な広い視野をもつために他国の生活や日本との繋がりを学ぶ。また、日本の歴史や文化に対する興味関心を深め、主体的に自国のことについて学ぶ姿勢を養う。

2 社会科の学習で大切なこと

【地理的分野】1年生では、資料を活用して、外国の人々の生活を想像し、日本との繋がりを考えることが大切である。また、持続可能な社会そのため、自分の考えを発表する時間を重視する。知識面では、基本的な地理的位置関係の把握や、資料を活用する技能が大切となる。

【歴史的分野】一つ一つの歴史的事象を結びつけて考えることが大切となる。そのため、まずは大きな時代区分を理解し、それぞれの時代がどんな時代だったのか論述させる。また、時代の転換点の学習を大切に、時代の大きな流れを理解できるようにする。

3 思考力・判断力・表現力を高めるには

写真、グラフ、地図帳など、様々な資料を活用して必要な情報を見つけ、課題に対する答えをまとめる作業を行う。また、授業の導入を大切に、生徒の学習課題に対する興味関心を引き出すようにする。

4 家庭学習の進め方

授業では板書を写すだけではなく、自分でノート作りを進めることを推進している。ノートを中心に復習する時間が大切である。また、社会科では資料の読み取りが大切であるため、授業の中で資料やグラフを積極的に読み取ること。

5 評価について

定期考査で、語句の理解や資料活用の力などを見る。それ以外には、授業中のノートや自分の意見をまとめたプリントなどで、日々の学習の様子も評価対象とする。

【評価の観点およびその趣旨】

観 点	趣 旨
1 社会的事象への関心・意欲・態度	ノート、プリントなどの提出物
2 社会的な思考・判断・表現	定期考査、授業内ワークシート、提出物
3 資料活用の技能	定期考査、授業内ワークシート、提出物
4 社会的事象についての知識・理解	定期考査、小テスト

◇年間指導（学習）・評価計画

学期	月	領域 単元	学習内容	評価の観点	評価規準または基準	評価の方法 評価材料
一 学 期	4月	地理的 分野	<地理的分野> 第1部 世界のさまざまな地域 1. 世界の姿(4) 2. 世界各地の人々の生活と環境(8) 3. 世界の諸地域・北アメリカ州(5)	○地理的事象に対する関心を高め、広い視野で我が国、世界の諸地域の特色について認識を養おうとする。【関心・意欲・態度】	○国の大小、国境の意味などを様々な視点から大観させ、世界地理への関心を高める。 ○地球儀や世界地図などを活用して、緯度経度による地球上の位置の表し方などの知識や技能を身につけさせる。 ○異なる自然環境と人々の生活の特色をとらえさせる。 ○各州の特色を、自然環境、歴史、生活、文化、産業、結び付きなどの面からとらえる。	定期考査 プリント (授業内の話し合い活動) 提出物 ワークシート
	5月					
6月						
	6・7月	歴史的 分野	<歴史的分野> 第1章 歴史の移り変わりを考えよう(5) 第2章 原始・古代の日本と世界 ・人類の出現と文明のおこり(4) ・日本の成り立ちと倭の王権(5)	●歴史的事象から課題を見だし、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色などを多面的・多角的に考察し、公正に判断する。【思考・判断・表現】	●歴史に関心をもち、時代区分の方法・年代の表し方について理解する。 ●人類が出現し、やがて世界各地で古代文明や宗教がおこったことを理解する。 ●日本列島で狩猟・採集を営んでいた人々の暮らしの変化について考える。	

二学期	9月 ～ 11月	地理的分野	<p><地理的分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ州(5) ・アフリカ(4) ・南アメリカ州(5) ・オセアニア州(4) 	<p>○世界の地理的特色を地域の規模に応じて環境条件や人々の営みなどと関連づけて多面的・多角的に考察し、考えをまとめて発表する。【思考・判断・表現】</p>	<p>○異なる自然環境と人々の生活の特色をとらえさせる。</p> <p>○各州の特色を、自然環境、歴史、生活・文化、産業、結び付きなどの面からとらえる。</p>	<p>夏期休業中の課題</p> <p>定期考査</p> <p>プリント (授業内の話し合い活動)</p> <p>提出物</p> <p>ワークシート</p>
	11月 ～ 12月	歴史的分野	<p><歴史的分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大帝国の出現と律令国家の形成(5) ・貴族社会の発展(4) ・世界の動きと武家政治の始まり(5) 	<p>●我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色などを我が国の歴史と関連のある世界の歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。 【知識・理解】</p>	<p>●日本列島で国家が形成されていく過程を東アジアとのかかわりを通して理解する。</p> <p>●中国や地中海地域に統一国家が成立し、東西の交流がおこなわれたことを理解する。</p> <p>●天皇や貴族の政治が展開し古代国家が発展していったことや文化の国風化が進んだことを理解する。</p> <p>○これまでの学習をふりかえって、もっと調べたい国や地域、疑問をもっている国や地域を選び、調べるテーマや手順を決める。</p> <p>○地球儀や地図を活用し、我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の特色と変化、地域区分などを取り上げ、日本の地域構成を大観させる。</p> <p>○世界的視野や日本全体の視野からみた日本の地理的特色を、自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、地域間の結びつきの視点から大観させる。</p>	<p>定期考査</p> <p>プリント (授業内の話し合い活動)</p> <p>提出物</p> <p>ワークシート</p>
三学期	1月	地理的分野	<p><地理的分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア州(8) <p>第2部 日本のさまざまな地域</p> <p>1. 日本の姿(4)</p> <p>2. 世界と比べた日本の地理的特色(6)</p>	<p>○日本の地理的特色を地域の規模に応じて環境条件や人々の営みなどと関連づけて多面的・多角的に考察し、構成に判断する。【思考・判断・表現】</p> <p>○資料を収集し、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 【技能】</p>	<p>○地球儀や地図を活用し、我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の特色と変化、地域区分などを取り上げ、日本の地域構成を大観させる。</p> <p>○世界的視野や日本全体の視野からみた日本の地理的特色を、自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、地域間の結びつきの視点から大観させる。</p>	<p>定期考査</p> <p>プリント (授業内の話し合い活動)</p> <p>提出物</p> <p>ワークシート</p>
	1月 ～ 3月	歴史的分野	<p><歴史的分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の動きと武家政治の始まり(5) ・ゆれ動く武家政治と社会(8) ・結びつく世界との出会い(5) 	<p>●歴史的事象に関する関心を高め、それを意欲的に追究し、広い視野に立って我が国の文化と伝統について考え国民としての自覚をもとうとする。 【関心・意欲・態度】</p> <p>●年表や歴史地図、映像など歴史に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果を年表や報告書などにまとめたり、発表や討論などを行ったりする。 【技能】</p>	<p>●鎌倉時代、室町時代の武士がこれまでの武士とどのように変化したのか資料から読み取りながら、中世という時代の特色を大観し表現する。</p> <p>●南蛮貿易が盛んになった背景やそれに伴った日本社会の変化について理解する。</p>	<p>定期考査</p> <p>プリント (授業内の話し合い活動)</p> <p>提出物</p> <p>ワークシート</p>

平成 31 年度 社会科 第 2 学年 学習指導・評価計画

1 社会科の学習指導のねらいおよび目標

皆さんは将来、一人の大人として社会に出て行くこととなります。日本地理の学習では日本と世界の比較を通して、また歴史では世界との繋がりの中で、国際社会を生きていくためのグローバルな視点をもつことを目指します。

2 社会の学習で大切なこと

地理では、日本の地域的特色を実生活と結びつけて学ぶことが大切となる。また、歴史では繋がりを意識しながら、今の日本が形作られた土台を学んでいく。

3 思考力・判断力・表現力を高めるには

各時間の中で出される問いに対して、グラフや資料を効果的に活用して考え、答えを導こうとする姿勢を大切にする。そして、そこで考えたことをグループワークで話し合い、教え合いながら自分の考えや意見を深め、伝える力を養う。

4 家庭学習の進め方

地理では資料やグラフ、地図との関連を意識しながら、その時間の学習の復習を行う。歴史では一つ一つの出来事理解はもちろん、それらの出来事を繋がりの中で理解することが大切。地理・歴史ともに前の学習も振り返りながら学習をすると、理解をしやすい。

5 評価について

定期考査、授業内での小テスト、提出物（ノート、プリント）、長期休業中の課題で評価をつける。プリントは、単純に答えを埋める内容のものだけではなく、話し合った内容や自分の考えを記入する欄もあるので、積極的に自分の意見を書けるとよい。

【評価の観点およびその趣旨】

観 点	趣 旨
1 社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な事象に対する関心を高め、それらを意欲的に追求し、よりよい社会を考え自覚をもって責任を果たそうとする。
2 社会的な思考・判断・表現	社会的な事象から課題を見だし、社会的事象への意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化をふまえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
3 資料活用の技能	社会的事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。
4 社会的事象についての知識・理解	社会的な事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身につけている。

◇年間指導（学習）・評価計画

学期	月	領域 単元	学習内容	評価の観点	評価規準または基準	評価の方法 評価材料
一 学期	4月 ～ 7月	【歴史的 分野】 第3章 中世の日本と世界	第3章 第2節 ゆれ 動く武家政治 と社会(3)	・武家社会の展開、経済の発達、文化に対する関心を高め、理解を深めて知識を身に付けている。【関心・意欲・態度】【知識・理解】	○南北朝の内乱と室町幕府の成立から戦国の動乱について理解する。 ○諸産業が発達し、自治的なしくみが成立したことを理解する。	定期考査 プリント (授業内の話し合い 活動や作業) 提出物 ワークシート
		第4章 近世の日本と世界	第1節 結び つく世界との 出会い(4)	・ヨーロッパ社会におけるルネサンスや宗教改革、新航路開拓等、14～16 世紀に起こった出来事の特徴と日本への影響などについて多面的・多角的に考察している。 【思考・判断・表現】	○中世ヨーロッパでは、ヨーロッパ諸国が貿易や布教などを目的に世界各地へ進出していったことを理解する。 ○ヨーロッパ人が日本に来航した背景や目的を理解し、それが日本の社会に及ぼした影響について考える。 ○織田豊臣の統一事業や朝鮮への出兵などの対外関係についてとらえ、近世社会の基礎が作られたことを理解する。 ○南蛮文化などが取り入れられる一方で、武将や豪商などの豪壮・華麗な文化が生み出されたことに気付く。	
		【地理的 分野】 第2部 日本のさまざまな 地域	第2章 世界と比べて日本の地域的特色(10) 第3章 日本の諸地域 1節 九州地方(4)	・日本の地域的特色を、様々な観点から多面的・多角的に考察し、その家庭や結果を適切に表現している。【思考・判断・表現】	○世界的視野から日本の地形や気候の特色を理解するとともに、自然災害と防災への関心をもつ。 ○九州地方の地域的特色について環境問題の取り組みを中核として、自然環境や産業、地域開発の動向、人々の生活などと関連づけて考察する。	

一学期	7月	【歴史的 分野】 第3節 幕藩体制の確立と鎖国(4) 第4節 経済の成長と幕政の改革(4)	・江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策、身分制度の確立と幕藩体制、農村の様子などに関心を高め、追求している。【関心・意欲・態度】 ・経済の発達と都市の繁栄、町人文化や地方の生活文化、政治改革、新たな学問椰子壮に関する資料を活用している。【資料活用 of 技能】	○幕府の政治について考えるとともに、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。 ○産業や交通の発達、町人文化が都市を中心に形成されたことや各地方の生活文化が生まれたことを理解する。 ○貨幣経済の広まりや百姓一揆などの農村の変化、江戸幕府の政治改革について理解する。		
二学期	9月 ～ 12月	【歴史的 分野】 第5章 近代の幕開け 第6章 近代の日本と世界 【地理的 分野】 第2部	1 近代世界の確立とアジア(5) 2 開国と幕府政治の終わり(8) 1 明治維新と立憲国家への歩み(6) 2 激動するアジアと日清・日露戦争(3) 2節 中国・四国地方(4) 3節 近畿地方(4) 4節 中部地方(4) 5節 関東地方(4)	・市民革命や産業革命の背景や影響を多面的・多角的に考察し、表現している。【思考・判断・表現】 ・幕府が開国したことへの関心を高め、政治的・社会的な影響について意欲的に追求している。【関心・意欲・態度】 ・明治維新や自由民権運動について理解し、知識を身に付けている。【知識・理解】 ・条約改正や日清・日露戦争kじやら近代化した日本を理解する。【知識・理解】 ・歴史や地形、他地域との結びつきに関心をもち、それを意欲的に追求しようとしている。【関心・意欲・態度】 ・東京に大都市圏が形成される理由を、首都機能や産業分布から考え、都市問題の原因を判断しする。【思考・判断・表現】	○欧米諸国における市民革命や産業革命、アジア諸国の動きなどを通して、欧米諸国がアジアへ進出したことを理解する。 ○欧米諸国の接近と幕府政治の行き詰まり、開国の政治的・社会的な影響について、欧米諸国との関わりから理解する。 ○新政府による諸改革により近代国家のものが整えられ、人々の生活が大きく変化したこと、また立憲国家となっていくことを理解する。 ○条約改正の動きや日清・日露戦争についてとらえ、大陸との関係を理解する。 ○人口や都市・農村を中核として、自然環境、産業などの面を関連づけて考察する。 ○歴史的背景を中核として、自然環境、産業・文化、人口などの面を関連づけて考察する。 ○中部地方の各地域の自然環境や社会的条件の違いによる農業や産業などの違いに着目させて地域的特色をとらえる。 ○他地域との結びつきを中核として、自然環境、産業、人口などを関連づけて考察する。	夏期休業中の 課題 定期考査 プリント (授業内の話し合い活動や作業) 提出物 ワークシート
三学期		【歴史的 分野】 第6章 近代の日本と世界 第7章 二度の世界大戦と日本 【地理的 分野】 第2部	2 激動するアジアと日清・日露戦争(3) 3 近代の産業と文化の発展(4) 1 第一次世界大戦と民族独立の動き(5) 6節 東北地方(4) 7節 北海道地方(4)	・世界の中の日本を、東アジアの動きと関連させ、資料を活用してまとめている。【技能】 ・グラフや地図から近代産業の発展を読み取る。【技能】 ・第一次世界大戦の背景や戦いの様子、大戦後の世界の動きを理解する。【知識・理解】 ・東北地方の産業や発達を写真・地図・グラフなどを活用してとらえる。【思考・判断・表現】 ・地図や雨温図、統計資料など、北海道地方の地域的特色に関する様々な資料を収集し、活用している。【技能】	○条約改正の動きや日清・日露戦争についてとらえ、大陸との関係を理解する。 ○産業革命と国民生活の変化、学問などの発展についてとらえ、近代産業が発展し近代文化が形成されたことを理解する。 ○第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動と国際協調などの動きについてとらえ、国際平和への努力と日本の動きを理解する。 ○伝統的な生活や文化は交通の発達や国際化など他地域との結びつきによって変化していくものであることをとらえる。 ○自然環境を中核として歴史、産業、生活、文化などの面を関連づけて考察する。	定期考査 プリント (授業内の話し合い活動や作業) 提出物 ワークシート

平成 31 年度 社会科 第 3 学年 学習指導計画・評価計画

1 社会科の学習指導のねらいおよび目標

社会（世の中）に対する関心を高め、多くの情報・資料から考えをめぐらせ、日本の国土の状況と歴史を理解する。国土への愛情を深め、国際社会に生きるために、平和で民主的な国家・社会の一員としての必要な教養を身につける。

2 社会の学習で大切なこと

歴史的分野は、年表とともに時代の流れや歴史的背景をイメージして理解してください。公民的分野（政治・経済）は、世の中で実際に行われているニュースに関心をもち、意識して考えてみてください。常に、様々な角度から考えることが大切です。

3 思考力・判断力・表現力を高めるには

【思考力】授業中に、必ず「なぜなんだろう、なぜこうなるんだろう」と疑問をもって授業に取り組んでください。【判断力】最終的には「どうすることがベストになるんだろう」と結論を各自出してください。【表現力】自分で出した結論を発表していただきます。みんなに理解してもらえるように、発表内容の工夫を高めていってください。

4 家庭学習の進め方

教科書をよく読み、ノートに書いたことやワークシート、プリント等をよく見直し、ワークブックをしっかりとやり、理解してください。授業中によく理解できなかったところを中心に復習を行ってください。理解できないところは、先生に質問に来てください。

5 評価について

定期テストの点数、ワークシート・プリント・ノート・ワークブック等の内容、小テストの点数、授業中の発表、等の総合成績で評価を出します。

【評価の観点およびその趣旨】

観 点	趣 旨
1 社会的事象への関心・意欲・態度	ノート、ファイル、ワークブック等の提出物、授業観察
2 社会的な思考・判断・表現	定期テスト、授業内ワークシート、提出物、他
3 資料活用の技能	定期テスト、授業内ワークシート、提出物、他
4 社会的事象についての知識・理解	定期テスト、小テスト、他

◇年間指導(学習)・評価計画

学年	月	領域	学習内容	評価の観点	評価規準	評価の方法		
1 学 期	4	公民 第1章 現代社会と私たちの生活(18時間)	1節 現代社会の特色と私たち(7時間) 2節 私たちの生活と文化(4時間) 3節 現代社会の見方や考え方(7時間)	・社会的 事象への 関心・意 欲・態度 ・社会的 な思考・ 判断・表 現 ・資料活 用の技能 ・社会的 事象につ いての知 識・理解	・現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などがみられることを理解させるとともに、それらが政治、経済、国際関係に影響を与えていることに気付く。また、現代社会における文化の意義や影響を理解するとともに、我が国の伝統と文化に関心をもち、文化の継承と創造の意義に気付く。 ・人間は本来社会的存在であることに着目し、社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について考え、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解する。その際、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任などに気付く。	・定期テ スト ・授業観 察 ・プリン ト ・提出物 ・ワークシ ート ・ノート ・ファイル ・ワークブ ック ・小テスト ・グループ 活動		
	5	歴史 第7章 (10時間)	1 第一次世界大戦と民族独立の動き(6時間) 2 大正デモクラシー(4時間)				・第一次世界大戦の背景とその影響、大戦後の国際平和への努力を、日本の動きと関わらせて理解している。 ・帝国主義政策から大戦後の動きまでを、多面的・多角的に考察し、表現できる。また、大戦後の日本の動きを政治・社会・文化を関連づけて考察し、表現できる。	
	6	歴史 第7章 (20時間)	3 恐慌から戦争へ(10時間) 4 第二次世界大戦と日本の敗戦(10時間)					・世界の様々な動きと合わせて、日本の軍部の台頭から戦争までの経過を理解する。 ・欧州での戦争、日中、太平洋戦争を関連づけながら、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を表現している。また、平和の大切さについて、現在の世界の動きとともに学び、思いを深める。
	7							

2 学 期	9 1 0	公民 第2章 個人の 尊重と 日本国 憲法 (16時 間)	1節 人権と日本国憲法 (5時間) 2節 人権と共生社会 (7時間) 3節 これからの人権保 障(4時間)	・社会的 事象への 関心・意 欲・態度 ・社会的 な思考・ 判断・表 現 ・資料活 用の技能 ・社会的 事象につ いての知 識・理解	・人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に 深め、法の意義を理解するとともに、民主的な社会生活 を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理 解し、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われてい ることの意義について考える。また、日本国憲法が基本 的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則とし ていることについての理解を深め、日本国及び日本国民 統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行 為について理解する。 ・地方自治の基本的な考え方について理解する。その際、 地方公共団体の政治の仕組みについて理解するとともに 、住民の権利や義務に関連させて、地方自治の発展に 寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てて いる。また、国会を中心とする我が国の民主政治の仕組 みのあらましや政党の役割を理解し、議会制民主主義の 意義について考えるとともに、多数決の原理とその運用 の在り方について理解を深める。さらに、国民の権利を 守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な 裁判の保障があることについて理解するとともに、民主 政治の推進と、公正な世論の形成や国民の政治参加との 関連について考える。その際、選挙の意義についても考 える。	・夏期休 業中の課 題 ・定期テ スト ・授業観 察 ・プリン ト ・提出物 ・ワークシ ート ・ノート ・ファイル ・ワークブ ック ・小テスト ・グループ 活動
	1 1 2	第3章 現代の 民主政 治と社 会(22 時間)	1節 現代の民主政治 (6時間) 2節 国の政治の仕組み (10時間) 3節 地方自治と私たち (6時間)			
1 0 1 1 1 2	9 1 0	第8章 (9時 間)	1 日本の民主化 と冷戦(4時間) 2 世界の多極化 と日本(3時間) 3 冷戦の終結と これからの日本 (2時間)	・第二次世界大戦後の世界の動きと日本の諸改革につ いて多面的・多角的に考察できる。 ・世界の動きと日本の発展、国民生活の向上を理解で きる。 ・これからどのように社会と関わればよいのかを自分な りに表現できる。 ・身近で具体的な例を基に、経済に対する関心を高める。 経済活動における選択、消費者の権利、流通について多 面的・多角的に考えることができる。 ・企業の生産活動や社会的責任、株式会社の仕組みや現 代企業の特徴を理解し、将来について意欲的に考える。		
	1 1 1 2	公民 第4章 私たち の暮ら しと経 済(14 時間)	1 消費生活と経 済(8時間) 2 生産と労働(6 時間)			
3 学 期	1 2 3	公民 第5章 地球社 会と私 たち (15時 間)	1節 国際社会の仕組み (5時間) 2節 さまざまな国際問 題(5時間) 3節 これからの地球社 会と日本(5時間)	・社会的 事象への 関心・意 欲・態度 ・社会的 な思考・ 判断・表 現 ・資料活 用の技能 ・社会的 事象につ いての知 識・理解	・世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際 協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各 国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際 機構などの役割が大切であることを認識し、国際社会に おける我が国の役割について考える。その際、日本国憲 法の平和主義について理解を深め、我が国の安全と防衛 及び国際貢献について考えるとともに、核兵器などの脅 威に着目し、戦争を防止し、世界平和を確立するための 熱意と協力の態度を育てている。また、地球環境、資源 ・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、 技術的な協力などが大切であることを理解する。	・冬期休業 中の課題 ・授業観 察 ・プリン ト ・提出物 ・ワークシ ート ・ノート ・ファイル ・ワークブ ック ・小テスト ・グループ 活動
	1 2 3	公民 第4章 (16時 間)	3 価格の働きと 金融(6時間) 4 政府の役割と 福祉(5時間) 5 これからの経 済と社会(5時間)			
					※2月上旬からは問題演習をします。	